

8月の活動報告

担当:みらい塾 悠人、真衣、心優、有菜、陽奈、雄暉

「大間々祇園まつり」【有菜、陽奈、雄暉】

8月1日から8月3日に「大間々祇園まつり」が開催され、私たちみらい塾生がボランティアとして参加しました。お祭りでは、大間々高校の神輿や各区の山車を運びました。大きな山車を運ぶことは大変でしたが、地域の方々の応援やサポートもあり、最後まで運び切ることができました。2日目に雨が降ってしまって最終地点まで山車を運ぶことができず残念でしたが、大間々町の歴史と文化に触れることができ、ますます大間々町の魅力を広めたいと思うようになりました。



大間々高校の神輿



区の山車



お祭りでの1コマ

「サステナブルウィーク2023 打ち合わせ」【心優】

8月18日に、本校でみどり市商工会の方々と『サステナブルウィーク2023』の打ち合わせを行いました。今年のサステナブルウィークは、11月の実施を予定しています。昨年の案を踏まえながら今年はどうのようなものにしたいのか、大人から子供まで楽しめるかなど、さまざまなことを考えながら話し合いました。昨年は、「スタンプラリー」と「みらいカフェ」を企画&実施しました。大間々町の魅力を引き出せるようなものにするために、みらい塾生も積極的に案を出し合いました。SDGsの視点も忘れずに、商工会の方々と『サステナブルウィーク2023』を盛り上げて行ければと思います。



今回のミーティングの様子



昨年度の様子



昨年度の様子

「お化け屋敷×列車 ゾンビトレイン ZOMBIE TRAIN

60分間降りられないお化け屋敷」【真衣】

このイベントは、わたらせ渓谷鐵道と栃木県日光市主催で、群馬県桐生市・みどり市協力のもと「わたらせ渓谷鐵道を活用した路線の地域賑わい創出事業」として開催されました。イベントの内容は「列車内で発生する恐ろしい事態から脱出・生存を目指す体験型イベント」で、2023年6月4日から9月9日までの期間に計9回この列車が運行されました。本校からは2人のみらい塾生が計3回ボランティアとして参加させていただきました。私たちは、主に列車内に現れるゾンビを演じました。多数のメディアの宣伝や取材もあり、イベント当日は大盛況でした。「ゾンビ」という役作りはとても難しく、乗客の皆様楽しんでいただけたか不安でしたが、プロの方のご指導とお力添えがあり、みなさんに楽しんでいただくことができました。車内で悲鳴を上げる方や「怖かった」と言ってくれる方が予想以上に多く、私まで嬉しくなりました。今回のイベントをきっかけに、わたらせ渓谷鐵道だけでなく、この鐵道が経由する地域の発展、盛り上げに今後も尽力していきたいと思えます。



NHK取材の様子(みらい塾生徒)



練習の様子



みらい塾生のゾンビ

「協働ミーティング」【悠人】

8月25日に、群馬県主催で行われた「地域の課題解決を目指す！協働ミーティング『LGBTQを知る』」にみらい塾生代表として参加しました。このミーティングの目的は、当事者の方々が日常生活や社会生活を送る上でどんな事や物、制度、慣行等がバリアになっているかを多くの方に知ってもらうことにあります。またミーティングでは、地域で様々な取り組みを進める方々からの話題提供と、参加者を交えたフリートークが行われました。みらい塾ではこれまで「制服選択制」に関連したジェンダーの取り組みを行ってきました。このミーティングに参加した理由は、当事者の方々からお話を聞くことで、それぞれの生徒が着たいと思う制服を着用しやすい雰囲気を作るために何が出来るかを考えるきっかけになると思ったからです。今回、このミーティングに参加したことで自分たちの知識を更に深めることだけでなく、相手の意見や主張を尊重し受け止めることの大切さも学ぶことができました。引き続きジェンダーについてたくさん学び、正しい知識を広められるように活動していきたいと思えます。



大間々高校 取り組み発表の様子

「新島学園短期大学×早稲田大学のワークショップ」【悠人】

8月21日に、両大学の学生の方々とみらい塾生とで、地域活性化についてディスカッションを行いました。みどり市の須藤昭男市長とファシリテーターとして早稲田大学の教授の方も同席してくださいました。高校生の私達と年代が近い大学の学生の方たちと同じ課題について話し合うことで、今まで知り得なかった新しい発見がありました。また、高校生や大学生、市長、大学の教授という様々な目線からディスカッションを行うことで、新しい価値観やものの見方を得るきっかけにもなりました。

私たちみらい塾生は、3年以上前から「地域」について考え続けています。こうしたディスカッションで、地域外の方から見たみどり市の印象や他の地域と比べて異なること等が明らかになりました。ここから得た地域発展に必要な視点や今までの考え方を改めて見つめ直していきたいと思います。



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②



ワークショップの様子③